

国文学研究資料館
30年誌

平成 14 年

国文学研究資料館

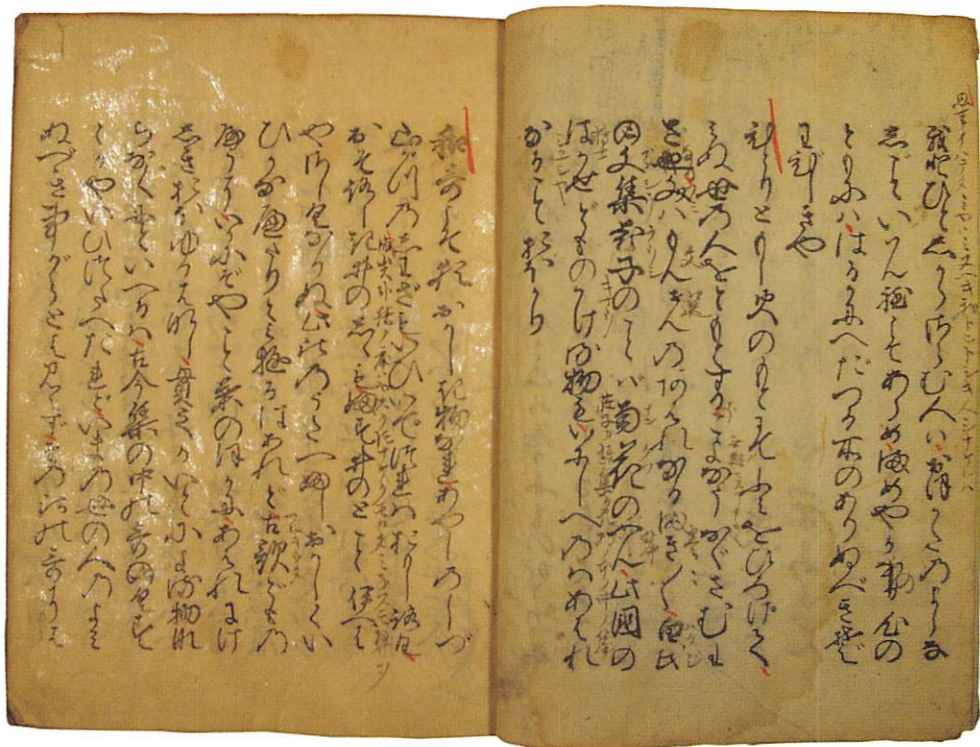
国文学研究資料館 30年誌

平成 14 年

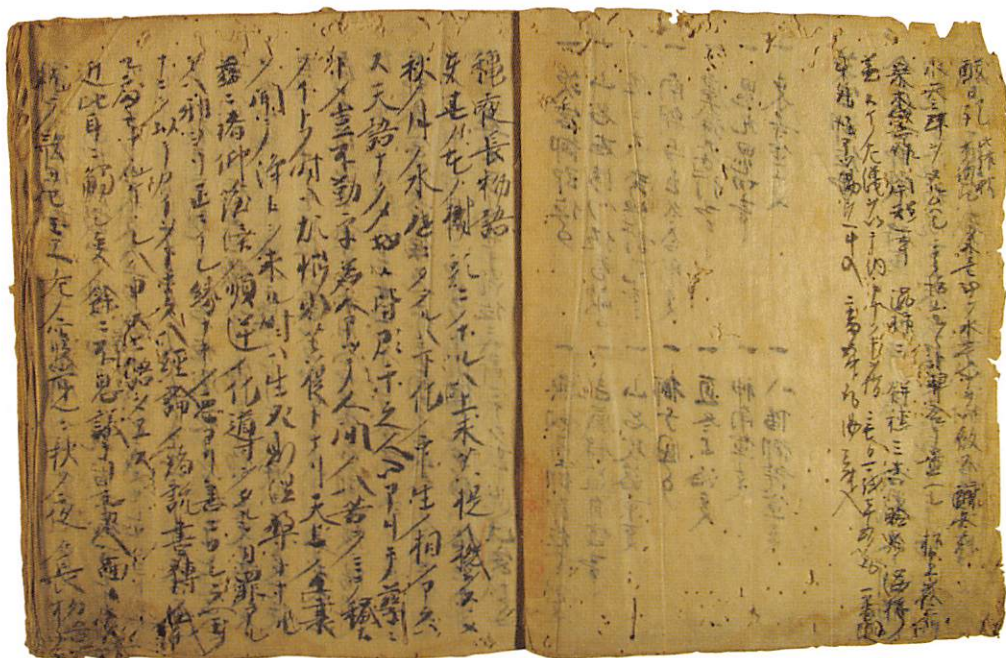
国文学研究資料館



国文学研究資料館正面



徒然草（慶長初年頃刊 古活字版 大本二冊）



秋夜長物語・太平記（永和元～三年写 一冊）

序

国文学研究資料館は、今年創立30周年を迎えました。書物文化の視点から日本を考えるために、資料と研究情報を整備して提供するのを基本事業としています。大学共同利用機関ですから、コミュニティの日本文学研究者9000人が一義的な利用者であることは言うまでもありませんが、その利用資料のほとんど全ては、研究者自身が調査員として作成した1枚1枚の書誌カードの集積によって形成されたという点に特色があります。即ち、当館の場合、コミュニティは利用者であると同時に資料・情報の作成者でもあったのです。

こう書くと、内部に閉ざされた印象を与えるかもしれませんが、利用者は無論、日本文学研究者にとどまりません。広く様々な分野の研究者にも、一般利用者にも、更には外国の日本研究者にも、開館当初から利用される「場」となっています。

この3年来、当館も行政改革、法人化の嵐に揉まれてきました。最終的な姿はまだもう少し先のことになりますが、現段階では、大学共同利用機関（15機関）は4つの研究機構に再編され、当館は、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所、国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館との5機関で構成される、人間文化研究機構に入る予定になっております。前近代1200年間の日本書籍の全てを調査し、利用できるようにするという当館の事業目的は、無論、今後とも維持され、数世紀をかけても完成に近づくべきですが、新機構で共同で開拓してゆく新分野の研究に参加して行く以上、組織の変革にとどまらず、コミュニティの方にも大きな学際的、且つ国際的な変動・流動が生じてくるものと思われまます。

日本の人文学全体の中で、文化資源の基盤としての書籍資料の研究は、今後どうあったらいいのか、大きな変革期を迎えた今、国文学研究資料館の歩んだ30年の道を振り返る三省の時が来ていることを痛感します。30年史を編む所以であります。

ただし、当館では既に、10年毎に『十年の歩み』『国文学研究資料館の20年』という資料集を刊行しています。従って、今回はそれを承けた形で、直近10年間の資料整理に重点を置きつつ、30年史としての性格をも持たせる公的記録としました。なお、付置機関である史料館についても、当然、併せた記録となっていますが、昨年と同館50年史に序文を記しましたので、ここでは敢えて触れません。

この10年、当館としては、近代文学資料研究室（文献資料部第4文献資料室）の新設、電子情報化への変革、海外資料調査の本格化など、前20年の在り方を大きく変える新しい意匠が生まれました。しかし次の10年は、総合的な新人文科学の研究組織への参加、立川市への移転など、更に大きな外からの変革要因が迫ってきています。為すべきことは何か、手応えのあった30年の重みを生かせるものであってほしいと願っています。

平成14年11月

国文学研究資料館長

松野陽一

目 次

口絵 序

I. 創立30周年に寄せて	1
創立30周年を迎えて	立教大学名誉教授 井上 宗雄 1
国文学研究資料館30周年記念に寄せて	東京大学名誉教授 藤原 鎮男 3
古典籍総合目録委員として	東京国立博物館客員研究員 柴田 光彦 5
思—い—出—すは	城西国際大学人文学部客員教授 ハルトムート・ロータモンド 7
国文研で蒔いた種	コロンビア大学名誉教授 バーバラ・ルーシュ 9
国文学研究資料館創立30周年に寄せて	日本女子大学長 後藤 祥子 11
ヨーロッパの図書館に所蔵してある由緒のある和漢書いくつか	ケンブリッジ大学教授 ピーター・コーニツキー 13
ブックロードのある風景	浙江大学教授 王 勇 15
国文学研究資料館と電子化資料	九州大学大学院人文科学研究院教授 今西裕一郎 18
創立30周年、ブラヴォー！	東京大学大学院総合文化研究科助教授 ロバート・キャンベル 20
国文学研究資料館と史料館 — 佐竹館長時代の思い出 —	中央大学文学部教授 森 安彦 22
〈記録史料の科学〉を拓く	駿河台大学文化情報学部助教授 保坂 裕興 24
II. 国文学研究資料館の「この10年」の概要	27
1. 管理運営の概況	27
2. 各部館の事業概要	34
(1) 文献資料部	34
ア. 30年の概要	34
イ. この10年の概要	35
〔1〕特殊文庫の調査・収集	35
〔2〕近代資料の調査・収集	36
〔3〕調査カードのデータベース化	37
(2) 研究情報部	38
ア. 30年の概要	38
イ. この10年の各室の概要	39

〔ア〕 情報資料室	39
① 国際日本文学研究集会の開催	39
② 国文学研究資料館報の発行	40
〔イ〕 情報分析室	41
① 『国文学年鑑』の編集・発行	41
② 「国文学論文目録データベース」の作成・公開	43
③ 『国文学研究資料館紀要』の刊行	44
〔ウ〕 データベース室	44
〔エ〕 情報処理室	46
1. 情報システム	46
1-1. 情報システムの概要	46
1-2. 日本文学研究における情報システムの役割	47
1-3. 情報システムの経緯	48
2. 情報システム開発研究	50
2-1. 第六期情報システムにおける整備状況	50
2-2. 主なシステム開発	52
2-3. 検討課題	53
〔オ〕 情報メディア室	54
① 創設期から現在まで	54
② 現状の問題、今後の目標	56
〔カ〕 研究開発室	57
(3) 整理閲覧部	58
ア. 23年の概要	58
イ. この10年の概要	59
1. 資料の受入	59
2. 閲覧業務	59
3. 図書・雑誌所蔵目録(OPAC)と図書館業務システム	60
4. マイクロ資料・和古書の整理と活用	60
5. 古典籍総合目録作成事業	61
6. 講演会・展示業務	62
(4) 史料館	63
ア. 創設以来の概要	63
イ. この10年の概要	63
〔1〕 史料管理学研究	64
〔2〕 史料学研究	65

[3] 国際学術研究	65
[4] 情報システム化の推進と史料情報の収集・公開	66
[5] 史料の保存と修復	67
[6] 史料管理学研修会の開催	67
[7] 公開・利用サービス活動	68
ウ. 展望	69
Ⅲ. 資料編	75
〈事業〉	75
〈名簿〉	197
〈参考法令(抄)〉	240
Ⅳ. 略年表	249
あしがき	